

重要事項の報告

重点港湾の不選定

8月3日、国において「港湾整備の選択と集中」を図るため、重要港湾103港の中から重点港湾43港を選定し、新規の直轄港湾整備事業の着手対象を原則これに限るとの選定結果が発表され、大変遺憾ながら、佐世保港は重点港湾として選定されるに至りませんでした。

佐世保港は、終戦直後、西日本で初めての貿易港として、さらに、昭和26年には準特定重要港湾の指定を受けて、商港として機能充実を図るため市民一丸となって取り組んでいた矢先、国策によって港湾施設の大半を米軍に再接収され、商港としての機能を大きく失うことになり、今日に至っているところです。

加えて、日本初の原子力潜水艦、原子力空母の受け入れをはじめ、我が国の安全保障にとっても大きな役割を担われるなど、市民の皆さまのご理解の下、全国のどの自治体よりも国の根幹をなす国防政策に協力してきたという自負があります。

今回の発表に至るまでの間、本市としても、戦後の佐世保港の歴史、

佐世保港の置かれた国防上の拠点港としての位置付けや、米軍に再接収された多くの港湾施設や佐世保港の約8割を占める制限水域により、商港としての活用に大きな制約を受けていることなどの課題を掲げながら港湾整備の必要性を訴え、これらの特殊事情があることを踏まえた上で選定を行うよう、旧重港四市で連携し、直接、前原国土交通大臣に要望するほか、正副議長と基地対策特別委員会をはじめ市議会とも一丸となって、あらゆる機会をとらえ、所管の国土交通省への要望のみならず、内閣官房をはじめ外務省、防衛省など関係省庁にも、強く働きかけをしてきました。

しかしながら、このような歴史的背景がある中、港のすみ分けが進展し、これから港湾の整備に取り組もうとするときに、今回の選定に至らなかったということは、戦後一貫して国策である国防の拠点港であるという事実を、苦渋の選択として受け

入れ、今日まで協力を惜しまなかった市民の皆さまに大きな失望と憤りを抱かせたと言わざるを得ません。

一方で、前原大臣は「安全保障に関わる佐世保港の立場については、今後、内閣全体で議論すべき課題」との見解を示されており、将来の佐世保港のビジョンを描く長期構想策定においても港湾整備の実現化には国の協力と支援が不可欠であることから、先ほど申し述べました佐世保港の置かれた特殊性などを国に十分理解していただき、特段の配慮を求め、今後とも市議会と相談しながら国へ要望活動を行ってまいります。

栄・常盤地区市街地再開発事業における公共施設の配置

栄・常盤地区市街地再開発事業については、平成18年に長崎県の認可により再開発組合が設立され、組合事業として進められてきたものであり、中心市街地において商業のみならず、今日まで協力を惜しまなかった市民の皆さまに大きな失望と憤りを抱かせたと言わざるを得ません。

ならず、まちづくりの拠点となる新たな魅力づくりを目的としたものです。また、本市の第6次総合計画においても、この事業を重点施策と位置付けています。

しかしながら、本事業はその後の経済情勢などのあおりを受け、事業進捗が遅れるとともに、組合自体の運営などについても大変厳しい状況となっており、市としても、このままでは中心市街地の衰退が一層進むことを懸念し、この状況の打開策について模索してきたところです。

このような状況の中、本年3月には子ども発達センター(花園町)の耐震性に問題があるとの報告を受け、その移転先を検討する中、施設が求める立地条件に合致することから、この地区への入居について、その可能性を検討するとともに、従来から要望がありました福祉系団体の活動拠点の設置の可能性などについても検討してきました。

これらの検討の結果、常盤南地区の1階と2階部分に加え、常盤北地区の1階部分から17日まで横浜市で開催された「全日本ジュニア体操競技選手権大会」において、聖和女子学院高等学校のダンコ絵里香リン選手が女子個人種目別跳馬で見事1位になりました。

これらの活躍は、選手・競技者、関係者の皆さんの絶え間ない努力がもたらした成果であり、本市のスポーツ・文化界だけでなく市民の大きな誇りです。

※本文の内容は、朝長市長が9月定例会議会で報告(9月2日)した内容を抜粋要約したものです。全文は、市ホームページ「市長の部屋」に掲載しています。



「全日本ジュニアテニス選手権・14歳以下女子ダブルスの部」で準優勝した相浦中学校の江代純菜選手(右)と川口桃佳選手(左)



「全国高等学校総合体育大会空手道競技大会・男子団体組手」で準優勝した佐世保北高等学校空手道部の監督と選手



「全日本ジュニア体操競技選手権大会・女子個人種目別跳馬」で1位になった聖和女子学院高等学校のダンコ絵里香リン選手

つながっていくのではないかと考えています。

今後この事業に対する具体的な取り組みについては、議会の皆さまから意見をいただきながら進めていきたいと思っております。

佐世保勢の活躍

8月1日に東京都で開催された「第57回全国高等学校ワンプロ競技大会」において、聖和女子学院高等学校ワンプロ部が2年連続で第2位となりました。

8月5日から17日まで大阪市で開催された「全日本ジュニアテニス選手権」において、相浦中学校の江代純菜選手、川口桃佳選手のペアが14歳以下女子ダブルスの部で準優勝されました。江代選手は「全国中学生テニス選手権大会」(8月21日～24日、山口県宇部市)の女子シングルスでも準優勝されました。

8月9日から11日まで沖縄県で開催された「全国高等学校総合体育大会空手道競技大会」において、佐世保北高等学校空手道部が男子団体組手で準優勝されました。

8月13日から17日まで横浜市で開催された「全日本ジュニア体操競技選手権大会」において、聖和女子学院高等学校のダンコ絵里香リン選手が女子個人種目別跳馬で見事1位になりました。

これらの活躍は、選手・競技者、関係者の皆さんの絶え間ない努力がもたらした成果であり、本市のスポーツ・文化界だけでなく市民の大きな誇りです。